

9月 月例会報告

【日 時】令和 7年9月27日 (土曜日) 13時から17時
【会 場】中央区・勝どき区民館 参加者14名 リモート参加6名

第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表 題名：「女王の都する所」 橋高 修氏

説明主旨：八王子セミナー2025の参加者の向けて、テーマ「卑弥呼はどこにいたか」の論点整理
そして、言いたいことは、「大和」ではなかった”事

(一) 発表項目：

① I・倭人伝行程文の限界、II・複数回にわたる帶方郡使の訪問、III・二分される行程文、IV・「自女王國以北」、V・皆鯨面文身」、おわりに（六つの論点）。

(二) 論点：

I ①「千余里」は正確か、②距離表示が正確でも末盧国の場所は不明、③末盧国から伊都国は北東方向。
II ①伊都国での出入検査、②女王国と帶方郡間に頻繁な交流。

III ①里程行程文に日程行程文が直接接続、②日数での距離表示は倭人からの伝聞による、③戸数表示も同じ。
IV ①「自女王國以北」は二か所に記載、②卑弥呼のいた場所が「大和」ならその北は京都府だが、その北海
上に壱岐・対馬はない。③従って「大和説」は否定される。

V ①『古事記』の証言、②神武記の伊須氣余理比売説話、③彼女は鯨面 = 「鯨（さ）」ける目を見たことがな
かった、④「女王之所都」はやはり九州。

VI ①千余里は約百km、②（結論）女王の都する所が九州内のどこにあったか特定できないが、
大和ではないことは証明できた。。

(三) 質疑・感想等：

①古田先生の提唱される説とは異なる解釈が披露された（特に里程と日程記事を直接連結、末盧国的位置
等）ため、会場から様々な質問と意見が出されました。

②説明・配布資料は要領よくまとめられ、発表も丁寧でした。

③ただ、里程問題の最重要記述である「自郡至女王国萬二千余里」に全く言及されなかつたことに強い違和
感を覚えました。

2. 懇談会

仙台から参加の広幡文氏が資料を配布して、①万葉集の京師と②日本書紀と古事記の概要を説明されました。
①では先月の読書会に関連して調べた結果を示され、
②では農業・養蚕・畜産の成立し説話と朝鮮語との関連から、『記』は『書紀』よりも編集年代が後年、
との可能性を引き出されました。（10分）

第二部 【勉強会と読書会】

1. 勉強会 題名：「古田武彦著作集」から 新保 高之氏 『盗まれた神話』 その十

(一) 内容：

最終回なので、全体のまとめとして、①全体構成と要点を再確認すること、②補章「神話と史実の結び目」
の要点を抽出すること。

(二) 要点：

①はじめに、第一～第十四章、結びにおける論述の概要を解説、
②補章を構成する九節についてその要点を説明。ただし、うち二節は『続日本紀』と『万葉集』に関する事
項だったため、説明を省略された。

(三) 質疑等：

質問や意見が少し出ましたが、特に取り上げるほどではないように感じました。（説明・質疑40分）

2. 読書会「岩波文庫『日本書紀』持統紀」 その十 新保 高之氏

(一) 対象事項：

持統紀全体のまとめ。

(二) 解説内容：以下の事項の説明がありました。

①通説学者がみる「持統天皇紀」の特色、②「持統紀」の重大な出来事（10件）と重要施策（5件）、
③「持統紀」の記事分類（9項目）の説明と分類一覧表の提示、④記事分類から見えてくる「持統紀」の
特徴を解説。

(三) 質疑等：

①「物品賜与」や「行幸（目的不明）」に関する記事が多いのは、バブル期だったのでないか、との意見
が出て、それについて他の方々から、
②つまり、九州王朝が衰退し近畿天皇家が実力を増していく。
③この結果、地方の特産物などが近畿に集まつた。
④証拠は、この時期の地方からの産物に関する木簡が近畿で多数出している、などの理由が示されました。
(説明質疑35分)

発表資料をご希望の方下記メールで事務局へご請求下さい
ご意見・ご質問はメールでinfo@tokyo-furutakai.comまでお寄せ下さい。